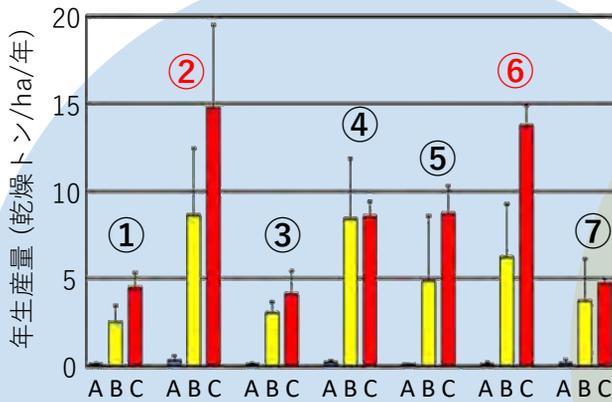


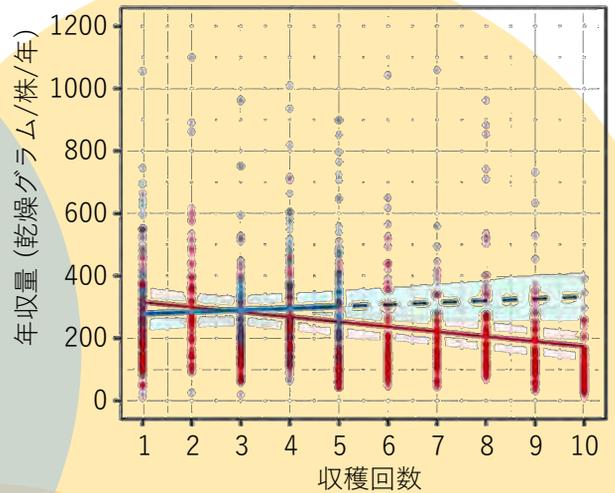
ヤナギ超短伐期施業による 木質バイオマス生産技術研究

初期成長に優れたヤナギを、短い伐期で収穫・萌芽再生させ、木質バイオマスを生産する技術の開発が進められています。欧州諸国では、既にヤナギ超短伐期施業による木質バイオマス生産を実用化しています。森林総研では、我が国に適したヤナギ超短伐期施業技術の開発と実用化に取り組んでいます。



A : 無施肥区、B : 堆肥区、C : 2倍堆肥区
 ①イヌコリヤナギ、②オノエヤナギ、③カワヤナギ、
 ④コゴメヤナギ、⑤ジャヤナギ、⑥タチヤナギ、
 ⑦ネコヤナギ

ヤナギは施肥により成長量を増大させることができます。土壌養分が乏しい場所でも、安価な市販豚ふん堆肥を施肥することにより、植栽したヤナギの成長が促進されました。



● : 毎年収穫、● : 隔年収穫

ヤナギを毎年収穫した場合、収穫回数を重ねると、雑草が多く繁茂し年あたりの収量 (年収量) が低下しました。一方、1年おきに収穫した場合、雑草があまり生えてこず、年収量は低下しませんでした。



収穫の翌年に発生したヤナギ萌芽の様子 (A, B : ケーンハーベスタ収穫。C : 手ノコ収穫)

サトウキビ収穫用国産収穫機 (ケーンハーベスタ) でヤナギを収穫することができます。ケーンハーベスタで収穫した場合、ヤナギの切り株に損傷が生じましたが、萌芽更新への悪影響は認められませんでした。

スウェーデン・エピロング市 木質バイオマス生産を行っているヤナギ林

高橋正義 (森林災害・被害研究拠点)



国立研究開発法人森林研究・整備機構

森林総合研究所